



社会人の体験談に生徒が耳を傾けた進路講演会

県内の社会人が自らの経験を高校生に語る進路講演会が大崎市の田尻さくら高(生徒177人)で開かれ、同校の2年生が社会の前線にいる講師の話に耳を傾けた。

講師は地域情報サイトの運営者やバスケットボールの国体選手、温泉旅館の従業員ら10〜60代の14人。社会人としての経験談を各教室で話した。松島町のホテル大観荘の従業員で、田尻高OGの氏家麻衣さん(19)は「接客が好きでこの仕事を選んだ。自分が何に向いているのかをよく考えてみるのが大切」と助言した。

田尻さくら高

# 社会人体験後輩に

2年生  
対象 14人熱心に進路助言

ほかの講師も「世界中を旅したことが糧になった」、「多くの人と出会い、刺激を受けることが力になる」と語った。

地域情報サイト運営者の話を聞いた大場奈於さん(16)は「こういう仕事があるのを初めて知った。地元の人とのコミュニケーションの場を設けようとしていて興味深かった」と話した。

田尻さくら高は2008年創立。11年3月に最初の卒業生を送り出す。進路講演会は生徒の進路意識を高めようと、初めて開いた。